

令和5年度 学校評価・保護者アンケート結果

評価1（1点）…全くできていない（そう思わない） 評価2（2点）…あまりできていなかった（あまりそう思わない） 評価4（4点）…おおむねできていた（大体そう思う） 評価5（5点）…よくできていた（そう思う）			
	実践分野	具体的な実践内容	平均
1	開かれた学校 家庭との連携	担任がクラスルームに投稿する予定や連絡、写真、ホームページ等を通して子どもの学校生活の様子がわかり、家庭でのかかわり方等の参考となった。	4.8
2	幼児教育	保育内容は、幼児の発達や聞こえの状態、生活体験に基づいており、幼児が楽しく積極的に活動に参加し、身体や言葉等で自己表現ができていた。	4.8
3	生活環境	幼児が季節感を感じられるよう工夫した壁面や装飾、作品の展示、他のクラスの保育の様子が分かる掲示がなされていた。	4.9
4	危機管理	各種避難訓練や交通安全教室等の学校行事を通して、幼児が安全に安心して生活できるように取り組まれていた。	4.9
5	健康教育	幼児及び保護者に対し、健康な生活、健やかな発育、けがや疾病の予防に必要な知識や行動について、学校医等と連携した保健の取組や研修がなされていた。	4.8
6	人権意識	教職員は、幼児一人一人の人権を尊重し、個々の思いや考えを大切にした教育活動が行われていた。	4.8
7	保護者研修	聴覚障害や聞こえ、言葉の発達や発声発語、聴覚障害児の将来像など、保護者のニーズに応じた研修が実施されていた。	4.8
8	図書の活用	読書活動の充実（絵本の購入、図書の整理、便りや掲示板での本の紹介等）が図られ、図書の活用ができた。	4.3
9	特別支援教育 施設設備	視覚的な情報や手話、スピーカーや補聴援助システム（ロジャー）等を活用するなどして、集団活動において情報保障がなされていた。	4.8
10	特別支援教育 個に応じた 教育	個別の教育支援計画作成時には、本人・保護者の願いを聞き取り、長期目標や支援内容等について十分に話し合うことができた。	4.9
11	特別支援教育 個に応じた教育	一人一人実態把握がなされ、個々の発達や特性に応じた保育の工夫や支援がなされていた。	4.8
12	評価	「まなざし」や「あおぞら」（個別の指導計画）の短期目標の設定、支援方法、評価は、適切でわかりやすく、今後につながるものであった。	4.8
13	保相部のみ 保相部の 教育	おやこ日誌のやりとりを通して保護者と担任が連携を深め、家庭と学校双方において子どもの理解、子どもとの関わりの充実につながった。	4.9
14	幼稚部のみ 幼稚部食育	幼児が食への関心や知識が高められるように、季節感や行事に配慮した給食、野菜などの栽培活動、親子クッキング、親子給食等を通して、体験的な活動が実施されていた。	4.7
15	幼稚部のみ 地域との 交流	保育園や高齢者施設、高等学校との交流により、大きな集団や異年齢の人達とのやりとりや遊びが経験でき、本校の教育や幼児の理解につながった。	4.0
16	幼稚部のみ 幼稚部の 教育	他学年との遊びなど異年齢での保育を計画的に設定し、友達や先生とのやりとりを増やしたり、協同性や道徳性を育む教育活動がなされたりしていた。	4.8
17	幼稚部のみ 自立活動	個別の保育（担任・発音・リズム・聴能）は、個に応じたねらい、内容、方法で取り組まれていた。	4.8